ばら作りの弁

大阪大学工学部建築工学科　伊　藤　克　三

楽譜は同じでもタクターで音楽は変る

品種は同じでも栽培者で花は変る

私は音楽のことはてんで分りません．わからないままに，名曲の作曲は偉大な芸術ではあるが，書かれた楽譜通りに演奏することは楽器操作の技巧であって，そこに芸術といわれるだけの創造があるのか，などといっては家のものどもから反撥されました．もちろん，これは痴人の極論です．楽譜というきまった枠の中でも，音楽の演奏は，演奏家の意図がその中に盛り込まれて，それぞれに美しい音楽を創造しているものであることは否定することができません．

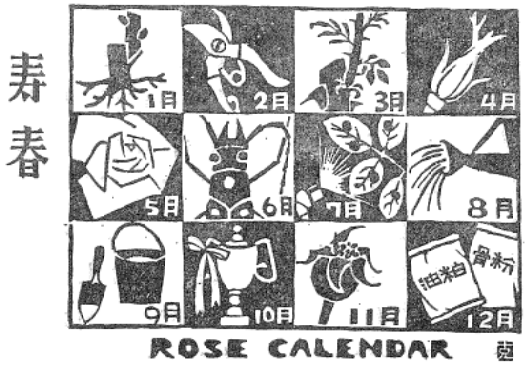
品種によってきまった花の咲くバラは，いくら苦労して栽培しても同じ花しか咲かないではないか，どこに作り甲斐があるのかと思われそうですので，音楽を引合いに出しました．バラ作りは音楽の演奏のようなものだといえば，音楽家から叱られるかも知れませんが，バラ作りの気持だけを汲取っていただければよいのです．ただ花が咲けばよいといったバラ栽培は論外です．いかにしてその品種特有の美しさを備えた花を咲かせるかに長年苦心しているバラ作りの心情は，演奏家のそれに似たものであるはずです．育種家がいくらすぐれた品種を作り出しても，そのよさを余すところなく示す花が実際に咲かされなくては観賞しようもありません．一頃は，新種でも作らないとバラ作りが空虚なものに思われて，自分で交配もしましたが，年とともにバラ作りの味わいが深まるにつれてそれもなくなり，今は専ら自分なりの花を咲かせることに腐心しています．

同じ楽譜の演奏にピンからキリまであるように，同一品種に咲く花も作りようで似ても似つかぬ違いを生じます．栽培者次第の花の咲くところに園芸の面白さがあるのですが，バラは特にこれが著しい．その上，同じように作っても気象条件その他が微妙に影響して，必ずしも思うような花の咲かないことも少くありません．何分，相手がもの言わぬ植物のこととて，わからぬことばかりです．５年や６年作って卒業したようなことをいう人もいますが，作れば作るほどむづかしく，とても卒業などあり得ないことです．それだけに奥行きが深く，何年作っても飽きがこないのではないかと思います．とは

いえ，案外に長続きのする人が少ないのは，手間がかかるせいかも知れませんが，バラの本当の面白さが分らぬうちにやめていく人の多いことは大変惜しい気がするのです。

花の命は短いといわれますが，とりわけバラの生命は短い．春のバラなどは木で咲かせておけば1，2時間で切角の美しい花形が崩れてしまうものが多く，室内に生けても翌日には乱れ観賞にたえなくなります．私どもには，この短い時間に見られる一輪づつの花の美しさを観賞するのがバラを作る最大の目標で，意に満たない花はいくら咲いても少しも嬉しくはありません．ただ一輪でもかまいません，満足のいくすばらしい花が咲いた時は，他を忘れて，しばしの間その一輪の美しさに魅せられてしまいます．これがバラ作りの最大の歓びであり，この花の色と形ははっきりと網膜に焼付けられ，いつまでも私どもの記憶に残されることになります．

春と秋には各地でバラ展が開かれ，バラの切花の品評会が催されます．多くの人達にバラの美しさを観賞していただける絶好の機会です．木におけば，すばらしく咲いた花も数時間のいのち，できるだけ多くの人に見ていただけるよう，長年出品を続けています．入賞のよろこびがないといえばうそですが，同好の人達とすばらしく咲いた花を観賞しあい，バラ談義にふけるのが大きな楽しみです．バラ作りのコンテスト派といえばいわれるかも知れませんが，やはりバラ作りはバラ展に出品することに多くの意味があると考えています．この頃は入賞よりも中輪の気品豊かなバラを出品して，いわゆるコンテスト向品種に見られない格調高いバラの美しさを理解していただこうと努めています．バラにはその花にただよう高い気品がなければなりません．審査に際しても，いくら立派に咲いていようと品位にかける花は取る気になれません．豪華な巨大輪よりも，つつましく上品な中輪品種に強く心がひかれるようになってきたのは，いくらかバラが分ってきたのか，あるいは年のせいかも知れません．

ここ4，5年，当工学部の諸先生，堤名誉教授，笹島，足立（彰）両教授らとともに小さなバラのグループをもつようになってからバラ作りも一層楽しいものになりました．殊に笹島先生はお宅が5，6分のところにあり，いつもお邪魔しては褒めたりくさしたり，本格的にはじめられて4，5年というのにお庭のバラは驚くばかりの出来ばえで，お手作りの雨覆いの設備まで自作されるというご熱心さ，こちらも対抗上間に合わせの屋根を大事な花だけには施さざるを得ない仕儀となりました．

この20年，あれこれ数えきれない品種を追いもとめ栽培してきましたが，これこそはと心のひかれる品種はそうあるものではありません．作る内に欠点が目につき，あるいは飽きの来るものが多い中に．永く作れば作るほど，ますますその美しさ，気品に惹かれ，魅せられる品種があります．これこそがバラの銘花だと思います．年々あらわれては消えていく夥しい新種の波の中に，ともすれば見失われそうな旧いこれらの銘品のよさを広く一般に再認識してもらおうと，バラ展，バラ会誌を通して呼びかけている昨今です。これも長年バラとともに生活して来たものの一つの務ではないかと思っています．